

上越市立教育センター

240号

所報

令和4年5月20日発行

発行：上越市大字下門前 1770 番地
上越市立教育センター
所長 竹内 学
E-mail jecenter@jorne.or.jp
URL <http://www.jecenter.jorne.ed.jp>



子どもの「今の幸せ」を応援する

所長 竹内 学

当センターの事業には、二つの事業があります。一つは、先生方の指導力、教師力を高める研修の実施や、学校教育の質の向上を図る研究に取り組む「教育研究事業」です。昨年まで取り組んできた「上越カリキュラム」の開発研究もこの事業の一つです。

もう一つは、学校訪問カウンセラーの学校訪問相談、南北不登校児童生徒適応指導教室の開設、24時間対応の「子どもほっとライン」電話相談、中央教育相談所（教育センター内）・南北相談所（南北適応指導教室）での来所相談、JAST（じょうえつあんしんサポートチーム）による学校問題解決支援、夏期・冬期カウンセリング研修の6つの取組で、子どもたちや保護者、教職員の心の安定を援助する「教育相談事業」です。

このように、当センターの役割は、教職員研修や研究、教育相談や適応指導教室、問題解決支援などの事業を実施し、未来を担う上越市の子どもたちが健やかに成長できるよう、学校の教育を支援することにあると考えています。

以前、ある教育関係誌の記事にあった遠藤洋路氏（熊本市教育長）の「教育が未来のための行為だとしても、子どもは未来のためだけに生きているわけではありません。（中略）すなわち、学校は、子どもたちの「将来」の幸せとともに、「今」の幸せをも考慮する必要があるといえます。」という言葉がとても心に残りました。遠藤氏が著した「みんなの「今」を幸せにする学校」（時事通信社）という本の中の言葉です。

「将来」の幸せとは、「子どもの資質・能力を育てる」ことです。そのための充実した学びや体験も「将来」のためです。一方「今」の幸せは、悩みや不安を乗り越えた明るい生活でしょう。しかし、よく考えてみると、子どもが意欲的・主体的に学ぶ充実した授業や活動も「今」の幸せではないでしょうか。学業の充実は子どもにとって「幸せ」な状況だからです。つまり「今」の幸せを築くと「将来」の幸せも築くことになるのです。

では、子どもの「今」の幸せを築くには何をすべきでしょうか。当センターでは、「子どもの将来の幸せと今の幸せを応援する」をモットーに、一つ一つの事業を現場目線に立って進めていきます。ぜひ、当センターの研修をはじめ、各事業をどんどん活用して、新しい理論やよりよい考え方、効果的な手法、必要な対応や取組などを、自分のものにしてほしいと思います。先生方の主体的な学びで、子どもたちの「今」を幸せに！

「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。

令和4年度 教育センター実施事業・メンバーの紹介

教育研究部



竹下 由加理 清水 登紀子 間島 広明 曾根原 至 山崎 彰 品田 やよい 内藤 雅代 高橋 栄介 加藤 喜美江 吉越 良子



新しく加わった単元の観察・実験等について重点的に研修します。昨年好評だった研修やポイントを絞った16時からの研修もあります。

<ポイント>

- ◆授業にすぐ使える教材を提供します。
 - ◆実験が成功するコツを紹介します。
 - ◆授業づくりの方法を紹介します。
 - ◆児童生徒科学研究発表会を実施します。
 - ◆先生方の困り感にいつでも相談にのります。
- 理科主任研修要項で理センの活用をチェック！
職員研修案内で楽しい研修をチェック！
多くの方のご利用をお待ちしています。



情報教育部



石黒 尚明 小山 かおり 中村 博子 箕田 夕香 竹内 毅 仁田 裕子 岸田 達雄 竹内 久美 高橋 航平 木浦 聡美 渡辺 正夫 高島 菜央 豊 和弘

教育資料部

◆教職員研修講座が変わりました。

全体の講座数、悉皆研修を減らし、Zoomによる遠隔研修を増やし、開催時刻を遅らせ参加しやすくしました。また、内容を工夫し魅力ある研修を計画しています。4月1日配付の職員研修案内をご覧ください、ぜひ、ご参加ください！

◆上越カリキュラム研究は、発展的解消です。

各校で上越カリキュラムの理念を継承し、学校づくりに生かしてください。

◆ピアサポート授業づくり事業では、教師の

授業力向上に役立つ動画を作成中です。授業参観・録画のご協力をお願いします。

◆第11期夢しごと元気塾は、各教科の講師陣

のマンツーマン指導で塾生の授業力や教師としての力量の向上を目指します。

科学研究部



齋藤 俊明 木原 義季 稲葉 浩一 丸山 恵

GIGAスクール2年目を迎えます。ご覧のように情報教育部員を増員し、学校支援体制を拡充しました。校務については、校務支援システムの活用や情報セキュリティの研修を、学習指導については、上越教育大学教授、附属学校・園の先生等を講師にお迎えして、理論と実践の両面からご指導いただきます。Meet や Zoom を活用したり、放課後の時間帯に研修会を設定したりするなど参加しやすい研修を心掛けています。iPad・教育クラウドなど新たな教育環境を活用し、教育の情報化を推進していきましょう。

教育相談部

学校訪問カウンセラー

◆学校訪問カウンセラーによる教育相談

小学校全 47 校を、10 名の学校訪問カウンセラーが分担して訪問し、相談活動を行います。学校が行う生徒指導や教育相談を側面から応援する役割を担います。学校の子どもたち、教職員、保護者を対象に、不登校やいじめに関する相談をはじめ、様々な相談に応じます。

◆学校外で行う「来所相談」

中央教育相談所（教育センター内）、南適応指導教室、北適応指導教室で受け付けます。（連絡先：P 4 参照）

◆電話相談「子どもほっとライン」

24 時間受け付けます。025 - 543 - 2199



宮澤 忠明	西田 美樹	関間 久子	横山 祐己	関川久美子	仁田 秀三	相澤 圭子	藤田 由江	富永 清文	岩島由起子
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

◆「カウンセリング研修」の開催

- ・夏期：8月1日(月)、2日(火)、3日(水)
 - ・冬期：12月26日(月)、27日(火)、28日(水)
- 教育相談や学級経営等に活用できる研修を通して、学校の諸課題の解決を支援します。

適応指導教室



北適応指導教室

南適応指導教室

諏訪 安貞 片山亜梨早 目細 敏子 田中 敦



不登校児童生徒への個別指導や体験活動などを通して自立心と集団生活への適応能力を高め、学校復帰をはじめとした社会的自立ができるよう支援します。

南・北教室それぞれ 2 人の指導員体制で、通室生への生活支援・学習指導を行います。また、保護者への丁寧な相談を心掛け、心の負担軽減に努めます。

「適応指導教室は来ても来なくてもよいところ。家と学校以外の新しい居場所」このスタンスで、通室生一人一人の通室スタイルに合わせ、個々のニーズに応えることができるよう適応指導教室の役割を果たしてまいります。

J A S T は、学校が主体となって困難な問題を早期に解決できるよう、関係機関等と連携して支援を行います。

令和 3 年度の相談受理件数は、小学校 67 件、中学校 55 件、その他 2 件でした。内訳は、不登校 39%、発達障害 30%、問題行動 15%、いじめ、虐待、その他 16%です。しかし、こうした J A S T が関わらせていただいた事案は全体のほんの一部でしょう。

ですから、ぜひ、専門性を必要としたり解決が長引いたりしている事案について、管理職を通してご依頼ください。自校の指導体制の見直しや教職員の生徒指導スキルアップにも役立ちます。私たちにお手伝いさせてください。

子どもが楽しい学校生活を送り、すこやかに成長できるように、学校と一緒に解決に向けて取り組んでいきます。

じょうえつあんしんサポートチーム(JAST)



加藤喜美江	藤田 由江	清水陽一郎	吉越 良子	小山 明	梶原亜紀子	山崎 彰	鈴木真理子	仁田 秀三
-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------



教育センター組織図



ご活用ください!

子どもの心に近づく

「安心できる場所を目指して」

学校訪問カウンセラー
関岡 久子

来所相談

来所相談は、保護者、教職員の皆さんや子どもたちが、学校生活や家庭生活などで悩んでいること・困っていることについて、相談所を訪れて相談するものです。

◇中央教育相談所（教育センター内）

- ◎受付曜日 月曜日～金曜日
(祝日、年末年始を除く)
- ◎相談時間 午前9時10分～12時
午後1時～4時

◇南教育相談所（南適応指導教室内）

◇北教育相談所（北適応指導教室内）

- ◎受付曜日 月曜日～金曜日
(祝日、年末年始を除く)
- ◎相談時間 午前9時～午後3時50分

※事前に電話で予約を受け付けます。

- ・中央教育相談所：025-545-9247
- ・南教育相談所：025-522-2428
- ・北教育相談所：025-545-0780
(いずれも受付曜日の相談時間内)

「はじめて相談室に行ったとき、ぼくはすぐきんちょうしていました。・・・相談室は学校で一番安心できる場所です。」相談に来た子どもからこんな手紙をもらいました。

少しは力になれたかなと思うと同時に、子どもが関わりの少ない大人に心の内を話すのは勇気がいるのだと改めて感じました。

また、親や先生に「カウンセラーさんに相談してみたら」と勧められて来室する子もいれば、友達と一緒におしゃべりに来る子もいます。何かモヤモヤしたら自発的に来室してほしいと願うものの、周りの大人が状況を察して、さりげなく背中を押し、相談につなげることも大切だと思います。

私たち学校訪問カウンセラーは、相談者が教室とは違う空気を感じつつ安心して話ができるよう努めています。最後に結論を出すのは相談者です。一緒に課題を整理しながら、自分で「こうしてみよう」と決め、行動できるようサポートする一人でありたいと思います。

